

第1回 光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議 会議録

日時：平成29年7月3日（月）18:30～20:00

会場：光市役所3階大会議室1・2号

【出席者】

委員：18人（全員出席）、事務局：6人、株式会社荒谷建設コンサルタント：4人

【内容】

1 開会

2 委嘱状交付

出席者を代表して河野みどり氏に市長が委嘱状を交付

3 光市長あいさつ

大変お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。

「光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議」には、大きな期待を寄せている。4月から実施している「第2次光市総合計画」において「ゆきかう光！JR光駅の橋上化と交通ネットワーク強化プロジェクト」として、重点プロジェクトに掲げている政策の1つでもある。皆さま方のご協力を得て、素晴らしいものにしたい。

ところで、スティーヴン・ホーキング博士をご存じと思う。車いすに乗った科学者で、宇宙に関して様々な提言をされている。私よりも5歳年上の74歳になられるが、地球から4光年離れたところにあるケンタウルス座・アルファ星に超小型の宇宙探索機を送り、新たな生命体の有無を調べようとしている。現在、そこに行くだけの技術がなく、技術開発に20年、地球からそこに到達するのに20年、そこで収集したものを地球へ送り返すのに4年かかる。今から44年かかる計画を、博士は自分で立ち上げようとしておられる。自分は結果を見ることができなくても、種を蒔くことが非常に重要であるという思いを持たれている。

行政においても同じことが言え、長期的な施策をつくる時は、自分たちが果実を見ることができなくても、今を生きる私たちは種を蒔かなければならない。私たちにできることは種を選定すること、種の品質を選定することである。今から「光駅周辺地区拠点整備」という種を蒔くが、この種の品質を良くするためには自分たちの努力もさることながら、皆さまのご意見を聞いて、素晴らしい種を蒔き、それが大輪の果実となり後世の人が収穫することを夢見ながら様々な政策を行いたい。皆さまのお力によって素晴らしい種になるよう心より祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。

2年間ではあるが、よろしく願いしたい。

4 自己紹介

各委員の自己紹介に続いて、事務局が自己紹介

5 会長・副会長選出

事務局案を求める声があったため、事務局案を示し、同意多数により決定

会長 鳩 心治 氏 (山口大学大学院 教授)

副会長 目山 直樹 氏 (徳山工業高等専門学校 准教授)

<会長あいさつ>

会長を仰せつかった山口大学の鳩です。私の専門は都市計画であり、本検討会議で議論する駅周辺整備基本構想については、専門的な立場から極めて重要なテーマであると考えている。現在、人口減少、高齢化が進行しており、地方都市はさらに顕著なスピードで進行している。その中で超高齢化社会に加え、温暖化という環境問題、地方都市の財政事情の悪化から、都市をコンパクトに集約することで安全で快適な、人と環境にやさしいまちづくりを目指すという動きが盛んになっている。

そこで都市の拠点として、公共交通の要として、さらには都市の顔づくりとして駅の再生が注目されている。「21世紀は駅の時代」と言われることもある。全国的に駅を中心とした都市の再生が実施されてきている。政令指定都市クラスの駅はほぼ終わっており、広島駅が今から実施という状況である。次に県庁所在都市クラスの駅で、県内では新山口駅が該当する。そういったことが全国的に動いている中で、これからは人口 10 万人に満たない都市の駅が全国的に議論されている状況であると認識している。光市も人口が 52,000 人で、人口減少と高齢化が想定されていると聞いているが、果たして光市が将来的にどのように駅を位置付けて活用していくかが重要なテーマになると考えている。

先日、光市の状況を視察したが、市街地が東西に延びており、合併時の都市の拠点がそのまま現在まで継続しているような多核型の市街地である。山が近いために、拠点から市街地が同心円上に広がらないという瀬戸内地方の特徴があり、東西に広がっている。そのために市街地に通過交通が入り込んできて、なかなか滞留しないという課題もある。これも瀬戸内の特徴であるが、沿岸が工業地帯になっており、人々がなかなか近寄れない状況になっている都市も多くある。宇部市や周南市がそうである。光市の場合は、駅から直近にすばらしい観光資源である虹ヶ浜があるという空間の特徴がある。もちろん市民の日常の利便性や快適性を考えていくことも重要であるが、駅は都市の玄関なので、来街者や市外からの人々をうまく受け入れながら、まちづくりに繋げていくという議論も必要であると思っている。

本検討会議は名簿を見ると各界のオピニオンリーダーが参集されていると認識している。市民が望む夢のある光駅周辺の将来構想もまとめ上げていきたいと考えている。ぜひ忌憚のないご意見を願いますと同時に、会議の進行にご協力を賜りたい。

<副会長あいさつ>

徳山工業高等専門学校の目山です。勤務先の徳山高専は、光市民の子が 15～20%通っている。家が近く便利なところに居住している者は、光駅や島田駅を利用しているが、旧大和町出身者や寮に入っている者など多種多様である。卒業生には光市役所を勤務先として選んで入庁し、戦力になっている者もいる。私は 8 年前に講師になったが、私の教え子たちも 10 名近く入庁している。何かの力になりたいと思っている。

光市は優れた個性を持っており、避寒地としての別荘地にもなっている。光市は住みよいまちである。私自身が高専の卒業生であるが、学生時代に虹ヶ浜に海水浴に行っていたイメージがすごく強い。今は「光駅」という名称だが、「虹ヶ浜駅」と呼ばれていた時期もあったと聞いている。光駅を降りた瞬間に虹ヶ浜が透けて見えるようなイメージ戦略があるのではないかと。橋上化され、駅に自由通路ができたときに、透けて見えた先に虹ヶ浜が臨めるといったものが、まちづくりの軸になればよいと思う。

もう一方で、私の専門は交通まちづくり、防災まちづくりの分野でいろいろ関わりを持たせてもらっている。交通まちづくりでは「モビリティマネジメント」という人々が移動することに着目して、どのような交通施設、交通基盤を作るか、どういう交通の仕組みを作るかを議論されている。日本モビリティマネジメント会議が立ち上がって12年目になるが、それに参加して思うのは、30万、100万人の都市だからできるのではなく、10万、5万人の都市でもモビリティマネジメントは可能であるということである。「路面電車がいないからダメである」とか「バスが十分に機能していないからダメである」とは思わずに、光駅を基点化していったときに、どういう風にまちづくりが進んでいくかを考えたい。一昨年前に岩田駅を交通結節点にして、地域の拠点化するという取組みを光市が行った。このような取組みを光駅で行いたい。光、島田、岩田と駅があるが、意味づけは全然違う。本日の資料にもあるが、「光の玄関」、「光」の前に「光あふれる」をつけたい。こういうイメージを進めていくためにも必要なことを議論して、皆さまの立場で持っているキーワードを自分の立場の視点から議論して、最終的には形や仕組みにしていければよいと考えている。

鳩先生は都市計画の分野で非常に著名な方で、山口県のことも熟知されており、世界を見つめておられるので、微力ながらお役に立てるよう頑張っていきたい。

6 議題

○ 光駅周辺地区拠点整備基本構想策定業務委託の受託者である株式会社荒谷コンサルタントが会議に出席することについて会長が承認

(1) 光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議について

事務局より資料に基づいて説明ののち、質疑応答等
⇒意見なし

(2) 光駅周辺地区拠点整備について

事務局より資料に基づいて説明ののち、質疑応答等

● 委員

15ページの「公共交通網形成計画」の説明で、このあたりは実際に交通拠点を描くという意味では前提条件になると思うので、委員全員に概要版などがわかる資料を次回までに提示いただきたい。また資料の図柄を見たときに自転車や徒歩という言葉も出ているだろうが、自転車や徒歩のイメージが出ていない。図柄には、駅に来る手段として考えられるものを全て出し、「自転車を使うから乗り換えができるように駐輪場が必要である」ということがわ

かるようにしていただければありがたい。

もう1つ、16ページで「都市機能が集まる場所、交通が集まる場所、人が集まる場所」とあるが、この交通は何を指しているのか。交通の機能を指しているのか、交通の主体を指しているのか、両方指しているのであれば、そのように補足があった方がよいと思う。交通の主体が集まるということは自動車や鉄道が集まる、機能が集まるということは乗り換えやつなぐ、待つなどいろいろな機能があるが、そのあたりも意識しないと最終的な目標につながっていかないのではないかと。そこは皆様のご意見をいただきたい。

● **事務局**

1点目の「公共交通網形成計画」は出来たばかりであるが、他の所管が作成しているため、冊子等の余分についてどの程度あるのか即答はできないが、委員の皆様には写しになるか抜粋版になるかわからないが、次回までにお示ししたい。

● **会長**

16ページの「光駅周辺地区の位置付け」は、今から検討会議で議論するテーマではないのか。これはどこからキーワードが出たのか。これはある意味コンセプショナルな話で、これをみんなで共有しながら目指すべき方向性を出すのではないのか。これは上位計画に書いてあるのか。

● **事務局**

16ページの下3行はキャッチフレーズのような形になっているが、これは計画で示されたキャッチフレーズではない。ただ、13ページにあるように、上位計画である「都市計画マスタープラン」では光駅周辺地区は3つの都市拠点地区の一つに位置付けており、15ページの光市公共交通網形成計画の抜き出しの中で主要な交通結節点に位置付けているが、鉄道や路線バスをイメージしており、ここは交通をつなぐ場所でもある。そういったことから16ページの3行のキャッチフレーズのようなものをお示しさせていただいた。

● **会長**

わかりました。行政計画は体系があり、上から「総合計画」、「都市計画マスタープラン」と計画が降りてくる形になっている。上位計画である「総合計画」もしくは「都市計画マスタープラン」の中で1つは光駅周辺が都市拠点地区と位置付けられているということで動かせない事実である。「光市公共交通網形成計画」は出来たてということだが、光駅は交通結節点と位置付けているという2つのことから16ページの拠点、核ということが出てきている。その下の3行から都市機能が集まる、交通が集まる、人が集まるというのはあくまでも事務局が拠点のニュアンスとしてお伝えしていることで、個人的にはこれ今から皆で議論しなくてはならないのではないかと考えているので、ご意見を出していただきたい。拠点は上位計画で位置付けられているので、十分に認識した上で、どういう拠点が光駅にはふさわしいのか議論していただきたい。

● **委員**

お伺いしたいが、光駅は光市民にとって拠点となっている。一方、市では、「住みよいまち、安心安全のまち」を標榜しているが、光駅の現状は全く違う。現状、一番の問題は列車とホームとの段差であり、空気が非常に大きい。若い方は大丈夫だが、お年寄りや足の悪い方には非常に危険で乗降ができない。JRさんはこの問題をどのように捉えて改善しようと

しているのか。

● **会長**

回答できる範囲でよいので、ご意見いただきたい。

● **委員**

ご意見の段差解消は、先ほど事務局より説明があったが、国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」が平成 23 年度から実施され、光駅についても 3,000 人以上であることから平成 32 年までに整備をしていかなければならないという位置付けがある。光市さんとは本検討会議とは別に橋上化・自由通路の整備に向けての議論が今始まったところである。そうするとバリアフリーのためのエレベーターやスロープなどの段差解消の対策を講じていくことになるので、国からは 32 年度という指示になっているが、JR としても行政とともに今後、橋上化も含めて調整するという段階である。

● **会長**

バリアフリーについては、本検討会議とは別に JR さんと議論を進めているとのことであるが、本検討会議との整合性について事務局から説明できないか。

● **委員**

段差は毎日の問題である。「エレベーターがない」などいろいろ問題はあがあるが、次元が違う。近い将来事故が発生すると感じている。真剣に対応を検討してほしい。

● **事務局**

18 ページに、このたびの取組みの中で基本的な視点の 2 つ目として、バリアフリー化をお示ししている。国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」があり、多くの人を利用する鉄道駅とその周辺といったエリアについては、段差解消をはじめとするバリアフリー化を先行して進めていく必要があるため、このたびの基本構想の中で駅および駅周辺にどのようなバリアフリー化施策ができるのかを行政と、もちろん鉄道施設でもあるので、鉄道事業者さんが一緒になって考えていきたい。

● **会長**

委員の言われたことは緊急性を要する発言であったと思うが、拠点整備の全体スケジュールを見ると、事業化までに少し期間が空いてしまう。この整備とは別に、可能な箇所のバリアフリー化を考えられる範囲で検討していく必要性をご指摘いただいたと思うが、次回までに考え方を事務局からお示しいただきたい。

● **委員**

22 ページに駅周辺のにぎわいとあるが、基本的に楽しむものがなければ人は来ないと思う。ただ駅を新しくするだけでは難しい。私は店を営んでいるが、お客さまから「光駅には何もないね」とよく言われる。確かに外から来られる人にとっては何もない。具体的に駅と周辺整備はどういった形を考えておられるのか。発展させるには周辺も考えていかないと難しいのではないかと。

● **会長**

非常に重要なご指摘だと思う。事務局は今の段階でどのように考えているのか。検討会議も「光駅周辺地区拠点整備」となっている。7 つの基本的な視点のうち、6 番目の「駅周辺のにぎわいの創出」はどういうレベルまで考えておられるのか説明いただきたい。

● 事務局

行政を進めていく上で単なる駅の整備だけではいけないと考えている。交通の話もさせていただいたが、バス、タクシー、駅前広場の乗降、駐車場、駐輪場の現在、将来の利用状況も踏まえつつ、ただ単に電車に乗るだけのスペースというより、玄関口という見方もしているし、都市機能という観点からも今から考えていかなければならない。「駅周辺のにぎわいの創出」はどのような新たな機能が必要なのか、求められているのかをこの会議を通じて皆様のご意見を頂戴し、できることとできないことがあると思うが、こういった形が望ましいのかという話をしっかりお伺いしたい。

● 会長

この会議のテーマは、周辺地区の拠点整備である。どうしても公共だけではにぎわいを創出できないということで、民間の力、土地についても市有地だけには留まらないような範囲を考えていかなければ、駅周辺の拠点整備は難しいと思う。難しい業務になるかもしれないが、これは委員会の大きなテーマであると考えているので、皆様の方から大いに意見を出していただきたいと思う。

● 委員

通勤で徳山駅を利用している。徳山駅が2年前に橋上化になり、確かにきれいになったが、正直非常に不便になった。まず一番大きな点は、これまであった地上改札口が無くなったことである。これから光駅がどうなるかはわからないが、虹ヶ浜側から通勤・通学に利用する人には地上改札口は必須だと思う。「橋上化するので地上改札口を無くすということは非常に困る」と徳山に通勤している者は皆言っている。橋上化自体は良いことであるが、改札面、バリアフリー化にしても徳山駅並みの橋上化にするのであれば、外側、内側に計3基のエレベーターないしはエスカレーターが必要であると思う。それだけのものをまかなう予算ができるのが問題であると思う。駅周辺に関してもどの程度の利用かわからないが、フィールドワークされたもの、利用状況を資料として出していただけるとありがたい。

● 会長

1点は橋上駅のメリット・デメリットは充分に考えなければならないということである。現在はそのまま（1階の改札口に）行けるところが、一旦上って下へ降りるという手間が発生する。現在、駅の橋上化をしている都市が多いので、事前にリサーチをし、議論する必要がある。

2点目は、現状認識のため、周辺の状況について、リサーチした結果を報告していただきたいということだったと思う。それは次回、詳しく出していただけたらと思う。事務局にお願いしたい。

● 事務局

まず2点目について、これから本格化する基本構想を作成する上で皆さまのご意見、ご提言を伺う場である。25 ページ左に「現状と課題」をお示ししているように、「現状がこうだから今後こうしていかなければならない」という議論をしていただくことになるので、今後の会議でこうした現状をご説明していくことになる。資料については工夫をさせていただきたい。

1点目の橋上駅については、1番線に行くのにこれまでなかった上下移動が必要になるだ

ろうと思う。これは他でも同様の議論がなされたと思うが、それを回避するには複数の改札口が必要になる。そうなれば鉄道事業者さんとの様々な調整が必要になるので、こういった形が望ましいのかも踏まえて考えていかなければならない。

● **会長**

そういう事例などもこの会議でどんどん出していただきたい。

● **委員**

先ほど委員のご意見にあったように、現状ホームが低いということは、線路の高さを下げればよいのではないかと。技術的に難しくはないと思うが。

● **会長**

技術的には可能なのか。駅の部分だけ軌道を下げるという難しい話だと思うがどうか。

● **委員**

下げるということは物理的には難しくはない。ただ、前後の構造物との関係から駅だけ下げるというのは難しいと思う。駅の前後には橋や踏切があるので、総合的に見ていかなければならない。全体的に掘り下げるには全体的な計画が必要になってくる。

● **会長**

これについては先ほど申し上げたようにJRさんと光市の協議とも関わりがあるので、次回事務局から説明を求める。(バリアフリー化に関する) 協議の経緯等をお話いただきたい。

● **委員**

「駅周辺のにぎわいの創出」は駅の橋上化に伴って2階部分から虹ヶ浜まで歩道橋を設置してはどうか。単純な歩道橋ではなく、街灯やベンチを設置して虹ヶ浜までつないではどうか。虹ヶ浜という観光資源があり、夏はいろいろなところから人が来られるが、冬は来られない。歩道橋を設置して、人を誘導して周辺にカフェやサイクルステーションを整備すれば人が集まってくるのではないかと。

● **会長**

駅前の国道を横断するというのも、先ほどのバリアフリーの延長だと思う。そこで動線が切れている。5~10分で浜まで行けるところをもう少しスムーズな動線を計画して誘導していく。そういう施設の1つとしてデッキなどを架けて歩行者を誘導してはどうかというアイデアではないかと思う。これについて事務局はどうお考えか。

● **事務局**

21ページと関連があるかと思う。光駅の近くにある虹ヶ浜海岸は光市の宝である。虹ヶ浜へのアクセスという観点で具体的なアイデアをいただいたと受け止めている。都会にあるような延びたデッキ、ベンチやカフェや自転車など、県も積極的にサイクル県と言っているが、そうしたご意見をどこまで実現できるか考えていきたいと思っている。貴重なご意見ありがたい。

● **会長**

そういったアイデアをどんどん出していただきたい。駅と虹ヶ浜をどうつなぐかは、先ほどのにぎわいと同様、大きなテーマの1つだと思う。海岸と駅との連携を、どう空間的につないでいくかアイデアを出していただきたい。

● **委員**

光駅は立ち止まるところがない。たいてい電車の出る時間に合わせて駅に行くが、アーケード街、その中に本屋、喫茶店などがあれば立ち寄ろうと考える人も多いのではないか。

もう1点は、虹ヶ浜までの道路の縦筋（南北）は照明があるが、横筋（東西）の道は何もなく真っ暗である。夜間女性が歩くのが怖いということも聞いており、なんとか横筋にも照明をつけていただけないか。虹ヶ浜海岸もそうだが、室積海岸線の道路も暗い。「光」の部分が必要ではないか。

● **事務局**

道路照明などの施設については構想づくりの中でどんなことができるのか検討させていただきたい。光駅以外のことに関してはそういったご意見があったと所管に伝えておく。

● **会長**

今後、構想の中で「光駅周辺地区の現状と課題」が事務局で整理されてくるので、そこに今のご意見を盛り込んでいただきたい。

本日はこのあたりで締めさせていただくが、今回はまだ「現状の整理」や「課題の整理」が資料として出てきていないので、次回以降はかなり具体的な意見が出せるのではないかとと思うので、よろしく願いしたい。

7 **その他**

○ **事務局より連絡事項等**

- ・ 次回の会議は概ね秋以降の開催を予定。時間は現役世代の方も多くご参加いただいているので、夜間の開催を軸に調整する。
- ・ 「ふるさと光景観10選」への応募、周知のお願い

● **会長**

次回の日程等が決定すれば事務局から連絡させていただく。

● **委員**

会議は公開で行うこととなっているが、会議資料や会議録などはどのような形で公開されるか。

● **事務局**

会議資料は傍聴に来られた方にはお配りして、明日以降に配布資料を電子データにしてホームページにて公開させていただく。会議録も少し日数はかかるがホームページにて公開させていただく。

8 **閉会（20:00）**

- ・ （事務局）ご発言できなかった内容はこの後でも後日でもよいので、事務局までお知らせいただきたい。